

——個展では8シリーズ出されていますが、ステートメントを書くのは大変ではありませんでしたか？

個展で展示している作品は、今までAbox展などのグループ展で展示して、積み上げてきた作品なんです。けど、ステートメントは書き直したのものもあるんですよ。『彼の日を境に』では亡くなった愛犬-viviへの思いを作品にしているんですが、Abox展の展示の時はviviが亡くなった直後だったので、viviの名前は出さずに、「彼」とぼかしていたんです。作品を見に来て下さる知り合いに重い気持ちをダイレクトに伝えるのはどうなのかと思って…。

それでも、viviの事を知っている方には「心にグッと刺さる」「混乱しているでしょう？」と言われてまして…写真を撮っている自分の気持ちが、作品を通じて伝わってしまいましたね。



『彼の日を境に』の作品の並びを確認中。
展示の仕方にも工夫が。是非、実際に見て頂きたい。

——viviについてお話を伺えますか？

viviは私に写真を撮るきっかけをくれた子なんです。viviがいたから、ドックランに行くようになって、犬友さんが出来た。思い出のある子なんです。viviが病気になったのは11歳の頃。もっと一緒にいれると思っていたので、とてもショックでした。病気の事を聞いた時は写真を撮る気持ちも無くなっていましたけど、Aboxでの植物園での撮影会があったんです。viviの病気の事もあって、行きたくないと思っていたけども、前から申し込んでいて、行かないのも悪いかな、と思って行きました。そして植物園を歩いていて目に止まって撮影したのが、作品の一つにもなっているメタセコイヤの木です。撮影後の講評会で高崎先生に写真を見て頂いたら、「良いよ」と言って下さったんです。私としたら全然だったんです。気分も暗いし、viviの事で一杯一杯で。でも先生は、「今のその気持ちが出ているよ」と言っ